

終了報告書

留学プログラム名	イオンワンパーセントクラブ アジアユースリーダーズ 2016
所属（本学）	工学部 無機材料工学科 4年
留学先国	タイ
留学先	イオンワンパーセントクラブ
留学期間	プログラム実施期間：2016年 8月21日 ～ 2016年 8月27日 滞在期間：2016年 8月21日 ～ 2016年 8月28日

1 留学先の概略

本プログラムは公益財団法人イオンワンパーセントクラブによって主催、運営された。2011年から毎年開催されており、本年はタイ・バンコクで平成28年8月21日から同月27日までの7日間開催された。開催国の環境問題を題材として、各国から参加した高校生と大学生がそれぞれの班内で議論し解決策を各国行政機関に提言することを目的としている。さらに、こうした取り組みを通して異国間の文化交流や相互理解をすることを目的としている。本年はタイでの水環境問題が題材であり、タイ、マレーシア、インドネシア、中国、ベトナム、日本の6か国から大学生49人、高校生62人の総勢111人の学生が参加した。日本から参加した大学生は早稲田大学から3人、慶応大学から2人、上智大学から2人、千葉大学から1人、東京工業大学から1人であった。特徴としては、参加学生が理科系の学生よりも経済学や法学、国際協力などの文科系の学生が多く、文化間の交流だけでなく学問間の交流もできるということでないかと思う。

2 留学前の準備

参加者の募集の発表は大学の留学情報のサイトに表示されるのを参考にした。ただし、前回参加者などへは情報が優先的に伝わることもあるので、その人に聞くのも手段の一つであると思われる。

学内での選考ののち、大学の推薦によって大学からイオンワンパーセントクラブへ応募される。

イオンワンパーセントクラブの選考を通過してから留学参加までには2回の事前学習が準備された。1回目では顔合わせと概要の説明、必要書類の配布がされた。2回目では今回の題材に関連した内容の講義が行われた。本年は題材が水環境であったので東京での水環境について取り組んでいるNPO法人の会長から講義がされた。また、日本人参加者同士であらかじめ水環境に関する情報収集と共有を行った。現地での情報収集は時間が限られているために難しくなるので、ある程度集めておくのを勧める。

当日の航空券の手配や宿泊先の予約はイオンワンパーセントクラブによって行われるために特に準備することはない。ただし、あらかじめ旅券番号を知らせる必要があるため旅券の準備は早めに行っておくのが良いと思う。

3 留学中の活動及び感想

期間中の活動は主に大学生同士もしくは高校生同士の班で活動した。本年は日本人 2 人, タイ人 2 人, マレーシア人 2 人, 中国人 2 人, インドネシア人 1 人, ベトナム人 1 人の合計 10 人で一班作り活動した。



図 1(左), 伝統舞踊で使う衣装

図 2(上), タイの卵焼きを調理する様子

3.1 アイスブレーキングおよび文化交流

バンコクにあるチュラロンコン大学でタイの伝統舞踊と伝統楽器の体験を行った。それぞれの体験では現地の学生に直接教わりながら各国の学生と一緒に踊り, 演奏した。さらに, タイの伝統的な卵焼きを作った。積極的に参加して班員に声かけることでとても良い関係を築くことができたと思う。

3.2 タイの水環境に関する講義と施設訪問

タイの汚水処理に関する技術的な内容やこういった政策をとっているのかという内容を 3 人の現地の大学の講師を招聘して講義がされた。いずれの講義でもタイの現状がどうなっているのかを分かりやすく伝える内容であった。

施設訪問では最新の下水処理施設と先進的な水処理を行っているウォーターパークに伺った。講義だけではわからない実際の処理の現場や取り組みを体験することができた。

3.3 議論と発表

それぞれ班ごとに現在のタイの水環境の問題点を洗い出しそれに対する解決策を作成した。特に大学生は政府として何ができるかを提言として作成し, 高校生は市民として何ができるかを提言した。最終的に大学生, 高校生それぞれで金賞, 銀賞, 銅賞が選ばれて表彰された。

議論は英語で行われた。基本的には簡単な語彙で進むが, 時折それぞれの専門分

野での用語が出ることがあるので、その際に質問することができるようにする必要があると思う。また、議論の最中であっても意見があれば発言したいという意思表示をしておくといふ。必ずしも議論のまとめ役の意識が全員に向いているわけではなかったのが重要なことであった。

さらに、ある提案をしても文化的な背景の違いからすれ違うことがあった。例えば、ごみの分別を提案したとしてもほかの国の参加者から自国の人々ではそういったことができるほど教育されていないといふて否定されてしまうことがあった。こうした意識の違いを感じることも含めて勉強ではないかと思う。



図 3(左), 各国の衣装

図 4(上), 閉会式の様子

3.4 その他

最後に行われるパーティーにおいてそれぞれの国ごとに出し物を行った。伝統的な踊りや歌が望ましいが必ずしもその必要はなかったようだ。

4 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

私の参加した班では非常に優秀なインドネシアからの学生がおり、議論を引っ張りながら全員に役割を振り分けて円滑に提言の作成までもっていった。こうしたリーダーシップをとれる上に発表では流暢にわかりやすく演説をしていてとても驚いた。日本では出会うことのないエネルギーに満ち溢れた学生に触れることで、自分自身の強みをいかにしてその中で活かしていけるのかを考えることができた。

5 留学費用

プログラム参加中の交通費、宿泊費、食費などについては全額がイオンワンパーセントクラブによって負担された。必要な経費は保険料とお小遣い代であった。

6 **留学先での住居**

本年はシェラトンオーキッドホテルに宿泊した。部屋は日本人学生との2人もしくは3人部屋であった。朝食はホテルのビュッフェであった。毎年非常に良いホテルに宿泊することができている。

7 **留学先での語学状況**

私はTOEICのスコアが770であったが、さほど大きな障害を感じることはなかった。

8 **単位認定**

特になし。

9 **留学経験を今後、どのように活かしたいか**

今回のプログラムに参加することでアジアの様々な国に友達を作ることができた。この中には日本に興味を持っている友達も多くいた。もし、彼らが日本に来る際にはホストとして迎え入れていきたいと思う。

また、東南アジアの国と日本の関係の中で理科系の学生はどのような役割を果たしていけるのかを考える機会になった。今後も引き続き考え続けていきたいと思う。

10 **留学先で困ったこと**

特になし。食べ物が辛すぎたり甘すぎたりすることがあるが、そういったときは上手に避けながら食事する必要があると思う。

11 **留学を希望する後輩へアドバイス**

このプログラムは他のプログラムと比較しても非常に準備されていて環境の整ったものであると思う。十分な英語のスキルさえあれば気軽に参加してアジア各国の学生との交流を楽しんでほしいと思う。